

8 行動制限を受けている社会的行動障害のある患者に対する看護師のケアの意味

病院看護部 酒井陽子 加藤晴美 野田みゆき 會田人美 栗生田友子

<はじめに>

高次脳機能障害患者の社会的行動障害は、環境を適切に認知・制御できず、不安が強くなり混乱し、行動障害がさらに悪化するという悪循環をたどる。そのため、入院中は生活の安全確保が優先され、行動観察は重要な援助となり、常に観察が行われている。そこで、本研究では行動制限を受けている社会的行動障害のある患者に対して、ケアの意味を探ることを目的とした。

<研究方法>

社会的行動障害患者の看護を行っている看護師 2、3 名（経験年数が近い人で構成）のグループに、インタビューを 1 時間程度行った。行動制限を受けている社会的行動障害の患者への日々のケアを想起してもらい、ケアの場面において感じたり、考えたりしたことを語ってもらった。語りは、逐語録に起こし、ケアの場面において感じたり考えたりしたことを語っている部分を抽出し、その分脈に含まれているケアの意味を読み取り、テーマ化した。

<結果>

対象は 11 名で、経験年数は 9～27 年（平均 18.5 年）、高次脳機能障害患者の看護経験年数は 0.2 年～8 年（平均 3.4 年）であった。語りより、行動制限を受けている社会的行動障害のある患者への日々のケアの意味は 20 サブカテゴリーからなる 5 テーマが抽出された。< >はテーマ、()はサブテーマ数である。看護師は、<安全と倫理的配慮の思いの中で対応を模索する> (2) を前提にして<患者の安全と安寧の環境を模索する> (6) ことを目標に<患者の行動の意味を探り取り巻く状況を理解する> (6) ことに努め、また<患者の社会性を育てる> (4) <大変な思いを抱える家族を支援していく> (2) という価値のもとにケアが行われていた。

<考察>

社会的行動障害患者は、理解しにくい行動を示すことがあるが、本人にとっては意味のある行動であることを看護師は理解したうえで、行動の意味を探り、対象を理解しようと努力していた。その対象理解によって関係性の形成を図っていると考えられた。

抑制廃止に絡む看護技術として、先行研究ではより良い関係性形成技術、的確な観察・判断の技術、個々に合った環境を提供する技術などが抽出されているが、本結果でもこの 3 つの要素がサブカテゴリーレベルも含めて抽出された。高次脳機能障害患者のケアとして新たに抽出された内容には「社会性を育てる」「大変な思いを抱える家族を支援する」があった。行動制限をせざるを得ない状況の中にあっても、患者の意思を尊重し、社会に戻った後の生活に適応させていくことを大切にして関わっている看護師のケアの姿勢が表現されたものと考えられた。

<結果>

行動制限を受けている高次脳機能障害患者看護ケアの意味には、患者の行動の意味を探り患者をわかろうとすることや社会に戻ってからの生活に適応できるように、入院中から患者の社会性を育てることが抽出されており、行動の意味を探り続けることが重要になると考えられた。

表1 ケアの意味

テーマ	サブカテゴリー
患者の行動の意味を探り取り巻く状況を理解する	入院によるストレスの理解
	症状の多様さの理解
	理解できない行動の原因の探求
	訴えを聞き患者と看護師の思いをすり合わせる ことでの良い関係づくり
	行動制限のアセスメントの困難さ
	先輩看護師の対応を見て患者の対応技術を学んでいく
患者の安全を安寧の環境を構築する	患者の安全を確保するための配慮
	患者の欲求の充足
	心穏やかに暮らせる配慮
	家族環境の再構築
	心身の健康を整える
	役割調整を図りながらチームで関わる
患者の社会性を育てる	出来る体験を重ね達成感を味わうことで自信につなげる
	快を感じられる体験を繰り返すことで良い習慣を体得してもらう
	他者と生活する環境を整える
	社会復帰した時に困らないようにルールを学んでもらう
大変な思いを抱える家族を支援していく	家族の思いを理解する
	家族と積極的にコミュニケーションをとり家族の不安の軽減に努める
安全と倫理的配慮の思いの中で対応を模索する	抑制をしたくない
	不快に思われないような抑制の配慮